松前町商工会経済レポート（令和３年度第１四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

１．最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（１）愛媛県の経済概況

1　経済概況

新型コロナウイルス感染症の影響により、全体として弱い動きが続いている。　前回との比較 ⇨

○個人消費　前回との比較 ⇨

一部で弱い動きがみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比8．7％増、5か月ぶりに前年を上回る。
【専門量販店販売額】 ホームセンター、家電大型専門店は7か月連続で前年を上回る。
ドラッグストアは2か月ぶりに下回る。
【コンビニエンスストア販売額】 2か月連続で前年を上回る。
【新車販売台数】 普通乗用車は3か月ぶりに前年を上回り、軽乗用車は2か月連続で前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は持ち直しつつある。　前回との比較 ⇨
公共工事はやや弱い動きがみられる。　前回との比較 ⇨

【新設住宅着工戸数】 前年同月比 22.0％減少、3か月ぶりに前年を下回る。
【公共工事】 請負金額の前年同月比は 20.8％減少、2か月ぶりに前年を下回る。

○生産活動　前回との比較 ⇨

弱い動きが続いている。

【鉱工業生産指数】 前年同月比（原指数）5.2％低下、12 か月連続で前年を下回る。
電気機械、非鉄金属、石油・石炭製品等の業種で前年を上回る。
輸送機械、金属製品、プラスチック製品等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、求人が求職を上回り、緩やかに持ち直しているものの、依然として厳しい状況にあり、今後も新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に、より一層注意する必要がある。　前回との比較 ⇨
雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。　前回との比較 ⇨

【有効求人倍率】 1．31倍と6か月連続で前月を上回り、19 か月連続で前年を下回る。
【正社員有効求人倍率】 0．99倍と、前年を下回る。
【現金給与総額】 名目では前年比1．6％減、4か月ぶりに前年を下回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和３年５月分）」より転載
https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/030630keizaijousei.pdf（参照 2021-8-27）

（２）地場産業の状況（令和３年１月～３月の状況）

業種	産業事情
自動車関連	自動車関連は、やや操業度を下げており、世界的な半導体不足により、今後の需要は不透明。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要の減少が続いており、引き続き操業度を下げているが、一部で回復の兆しもみられる。 鉄構は、一定の操業度を維持しており、需要が停滞していた国内向けが回復傾向である。
陶磁器	陶磁器及び瓦は、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が減少し、操業度を下げている。
珍味品	珍味は、新型コロナウイルス感染症の影響により飲食店向けや土産物などの販売が低調であるため、やや操業度を下げている。
陸運関係	陸運関係では、人流抑制の影響により、需要が減少している。また、荷主企業の生産調整等により、荷動きが減少している。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和３年５月分）」より抜粋して掲載
https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/030630keizaijousei.pdf（参照 2021-8-27）

２．中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

（１）業種別業況判断ＤＩと天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断ＤＩ調査が実施されています。

ＤＩとは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転)」の割合から「減少(低下、悪化)」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とＤＩ値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

＜記号とＤＩ値の関係＞

快晴	晴	薄曇	曇	雨
～30.1	30.0～10.1	10.0～▲10.0	▲10.1～▲30.0	▲30.1～

＜業種別業況判断ＤＩと天気図（2021 年 4-6 月期）＞

製造業	食料品 ▲19.7	繊維工業 ▲31.0	木材・木製品 ▲7.6	家具・装備品 ▲22.5	パルプ・紙・紙加工品 0.9
	印刷 ▲36.9	化学 ▲8.0	窯業・土石製品 ▲22.0	鉄鋼・非鉄金属 1.3	金属製品 ▲4.3
	機械器具 ▲10.6	電気・情報通信機械器具・電子部品 ▲14.5	輸送用機械器具 ▲7.9	その他の製造業 ▲14.0	
非製造業	建設業 ▲13.9	卸売業 ▲19.3	小売業 ▲35.3	宿泊業 ▲54.3	飲食業 ▲50.0
	対個人サービス業（生活関連）※1 ▲30.6	対個人サービス業（自動車整備その他）※2 ▲17.7	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3 ▲34.4	対事業所サービス業（専門技術その他）※4 ▲15.0	情報通信・広告業 ▲17.9

※1「対個人サービス業（生活関連)」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の８業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他)」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫)」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の５業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他)」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の５業種。

（資料）中小企業庁「第 164 回中小企業景況調査（2021 年 4-6 月期)」より松前町商工会作成

（２）「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- 民間需要の停滞が前年度よりも著しい為、今期の事業計画の見通しが立ちにくい状態です。飲食・宿泊業からの案件は乏しく、工場等の設備投資も改修や修繕のみであり、例年以上に事業案件が少なく苦しい状況です。［建設業 北海道］

- 一棟貸し、庭キャンプという事業サービスのため、コロナ禍にあってもＧＷ中は昨対５倍の売上を計上した。しかしながら、団体当利用者数の減少は変わらず、キャッシュフローの悪化が懸念している点。緊急事態宣言の発出がされた場合には利用客の大幅なキャンセルが見込まれる。［宿泊業 千葉］

- 世界的な原油価格の高騰により、燃料費（軽油）も上昇、ここ数年で軽油は１番の高値になっており、輸送業界の収益を圧迫している。［対事業所サービス業 石川］

- コロナの外出自粛が続くので、飲食店を中心に売上が減少した。直接の緊急事態宣言は出ていないが、ＧＷ中の売上も過去最低のものとなった。スーパーでも消費期限の長いものがよく売れ、短い商品はあまり売れない。［食料品 滋賀］

- 昨年の休業要請・今年はコロナ蔓延により人流の皆無状態と悪条件が重なり苦戦中。夏以降ワクチン接種が進み次第に人の動きが活発になり景気も上向いて来るのを待っている。［小売業 香川］

- 新型コロナウイルス感染者増加に加えて、木材をはじめとする建築資材の価格高騰と異例の早期梅雨入りが、需要減と減益要因になりかねないと懸念している。［卸売業 鹿児島］

（資料）中小企業庁「第 164 回中小企業景況調査（2021 年 4-6 月期）」より抜粋

参　考

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：令和３年度第１四半期（令和３年４月～6 月期）

調査対象企業：１５０企業　　**回答企業：**１４９企業

（製造業：30 社　建設業：20 社　小売業：41 社　サービス業：58 社）

ＤＩ方式

ＤＩとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

＊記号とＤＩ値の関係

快晴	晴	薄曇	曇	雨
～30.1	30.0～10.1	10.0～▲10.0	▲10.1～▲30.0	▲30.1～

１．　業況判断ＤＩと天気図（２年間の推移）

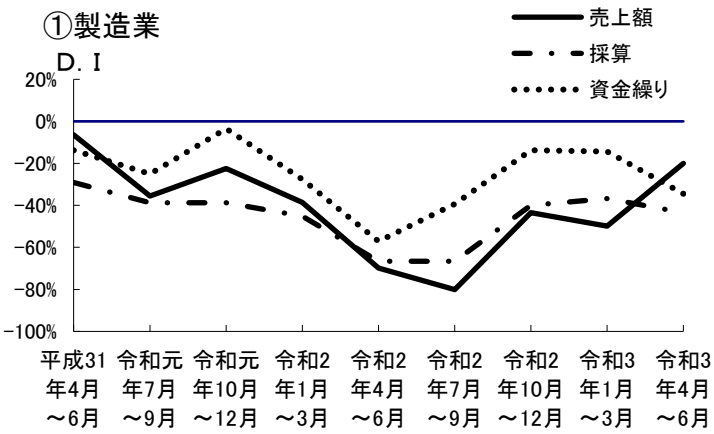
	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
期別	平成31年 4～6月期		▲ 23.4		30.0		▲ 45.0		▲ 12.1		▲ 12.6
	令和元年 7～9月期		▲ 36.7		20.0		▲ 41.0		▲ 15.2		▲ 18.2
	令和元年 10～12月期		▲ 26.7		10.0		▲ 46.2		▲ 25.4		▲ 22.1
	令和2年 1～3月期		▲ 43.3		0.0		▲ 55.0		▲ 23.7		▲ 30.5
	令和2年 4～6月期		▲ 69.0		▲ 25.0		▲ 77.5		▲ 60.3		▲ 58.0
	令和2年 7～9月期		▲ 55.2		▲ 20.0		▲ 65.9		▲ 54.2		▲ 48.8
	令和2年 10～12月期		▲ 41.5		▲ 20.0		▲ 64.2		▲ 37.9		▲ 40.9
	令和3年 1～3月期		▲ 39.3		▲ 20.0		▲ 53.7		▲ 34.5		▲ 36.9
	令和3年 4～6月期		▲ 40.0		▲ 25.0		▲ 51.2		▲ 28.1		▲ 36.1
	令和3年 7～9月期		▲ 13.4		▲ 40.0		▲ 51.2		▲ 42.1		▲ 36.7

（注１）業況判断ＤＩポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注２）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

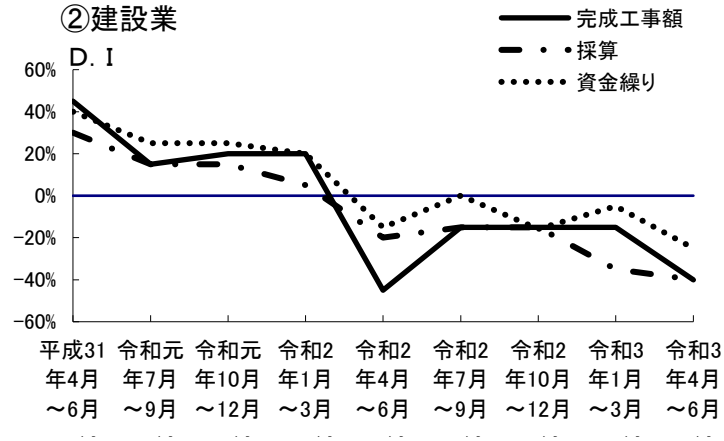
①製造業



〈前期比〉
売上額　：好転　　（▲49.9→▲20.0 ポイント）
採算　　：やや悪化（▲36.7→▲43.4 ポイント）
資金繰り：悪化　　（▲14.3→▲34.5 ポイント）

〈経営上の問題点〉（順位と比率）
１位：需要の停滞　（20.0%）
２位：原材料価格の上昇（16.0%）

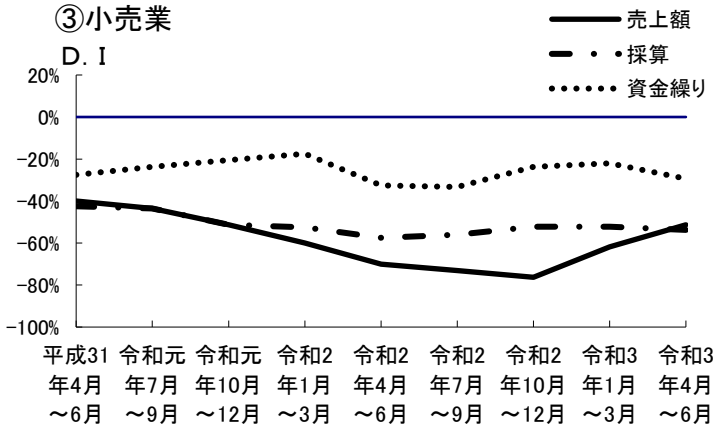
②建設業



〈前期比〉
完成工事額：悪化　　（▲15.0→▲40.0 ポイント）
採算　　：やや悪化（▲35.0→▲40.0 ポイント）
資金繰り　：悪化　　（▲ 5.0→▲25.0 ポイント）

〈経営上の問題点〉（順位と比率）
１位：熟練技術者の確保難（35.3%）
２位：官公需要の停滞（23.5%）

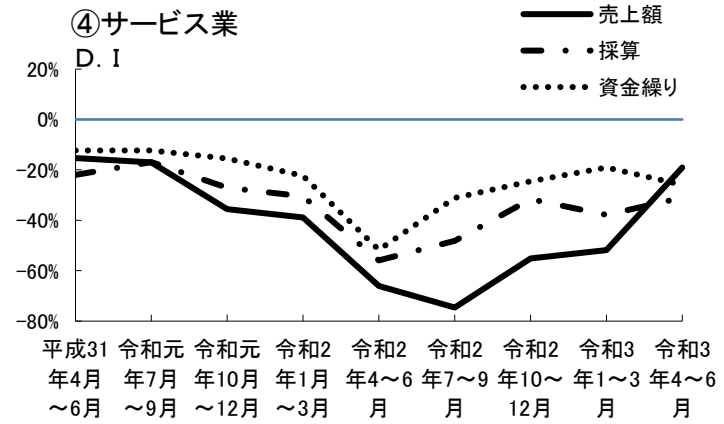
③小売業



〈前期比〉
売上額　：好転　　（▲61.9→▲51.3 ポイント）
採算　　：やや悪化（▲52.3→▲53.7 ポイント）
資金繰り：やや悪化（▲22.0→▲29.3 ポイント）

〈経営上の問題点〉（順位と比率）
１位：購買力の他地域への流出、需要の停滞
　　（23.1%）
２位：仕入単価の上昇（10.3%）

④サービス業



〈前期比〉
売上額　：大幅好転（▲51.8→▲19.0 ポイント）
採算　　：やや好転（▲37.9→▲31.0 ポイント）
資金繰り：やや悪化（▲19.0→▲25.9 ポイント）

〈経営上の問題点〉（順位と比率）
１位：需要の停滞（31.3%）
２位：利用者ニーズの変化（27.1%）